

パブリックスペース・デザインマニュアルについて

- 1) デザインマニュアルの目的と役割
- 2) デザインマニュアルの位置づけ
- 3) デザインマニュアルの定義と対象範囲
- 4) パブリックスペースの構成要素
- 5) デザインマニュアルの構成
- 6) パブリックスペースデザイン検討の流れ

パブリックスペース・デザインマニュアルについて

1) デザインマニュアルの目的と役割

パブリックスペース・デザインマニュアルは、「九州大学 新キャンパス・マスタープラン 2001」に基づき、新キャンパスのパブリックスペースにおける空間の質・クオリティ・オブ・ザ・プレースの創出とその継承を目的として具体的なデザインの方向性や手法について提示している。

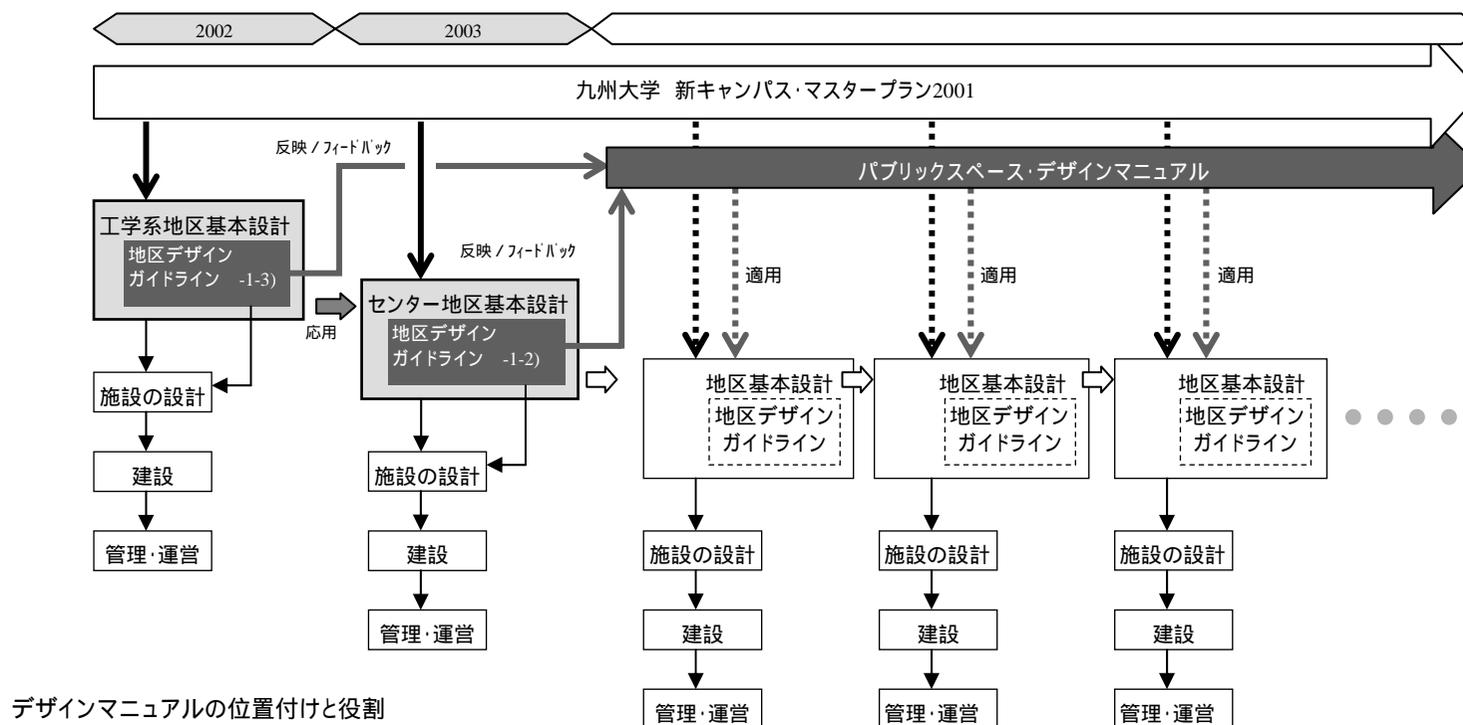
長期的な移転事業におけるキャンパス整備では、関係者の交替や様々な情勢の変化が予想される。そのため、パブリックスペースの将来像と目標像の共有およびその実現を支援する指針が必要であり、本マニュアルがその役割を担うこととなる。

なお、パブリックスペース・デザインマニュアルは、新キャンパスにおける汎用的なデザインの方針や手法を提示している。具体的な空間を対象とした基本設計や実施設計作業の際には、対象空間の「場所性」に配慮し、より最適な計画およびデザインをおこなうことが必要である。

2) デザインマニュアルの位置付け

「九州大学 新キャンパス・マスタープラン2001」は、アカデミックプラン(ビジョン)からフィジカルプラン(空間デザイン)への橋渡しとして、新キャンパスにおける空間の骨格や概略の方針を示した。また、「工学系地区基本設計」(2002)及び「センター地区基本設計」(2003)では、具体的な空間を対象とし、施設機能間の関係や効果的な土地利用に重点を置いた施設配置計画をおこない、その際、施設やオープンスペースに関する指針(デザインガイドライン)を付加した。

パブリックスペース・デザインマニュアルは、これらのマスタープラン2001及び2つの地区基本設計を受け、新キャンパス全体のパブリックスペース・デザインについての指針を示し、オープンスペースや各建築設計へのフィードバックを行なうと共に、今後進められる各地区の基本設計及び施設整備に向けた支援ツールとして位置付け、効果的な適用を図る。



3) パブリックスペースの定義と対象範囲

本パブリックスペース・デザインマニュアルにおいて対象とする範囲は、以下の通りである。

(1) オープンスペース

新キャンパス全体における建物の外部空間。アカデミックゾーンにおける「キャンパス・モール」、「キャンパス・コモン」、「グリーン・コリドー」、農場ゾーン、運動施設ゾーン、保全緑地など。

(2) 建物内部における共用空間

建物内部におけるホール、廊下、リフレッシュスペースなど。

(3) 半屋外空間

建物低層部におけるピロティ部分。

4) パブリックスペースの構成要素

パブリックスペースを構成する要素としては、以下が挙げられる。

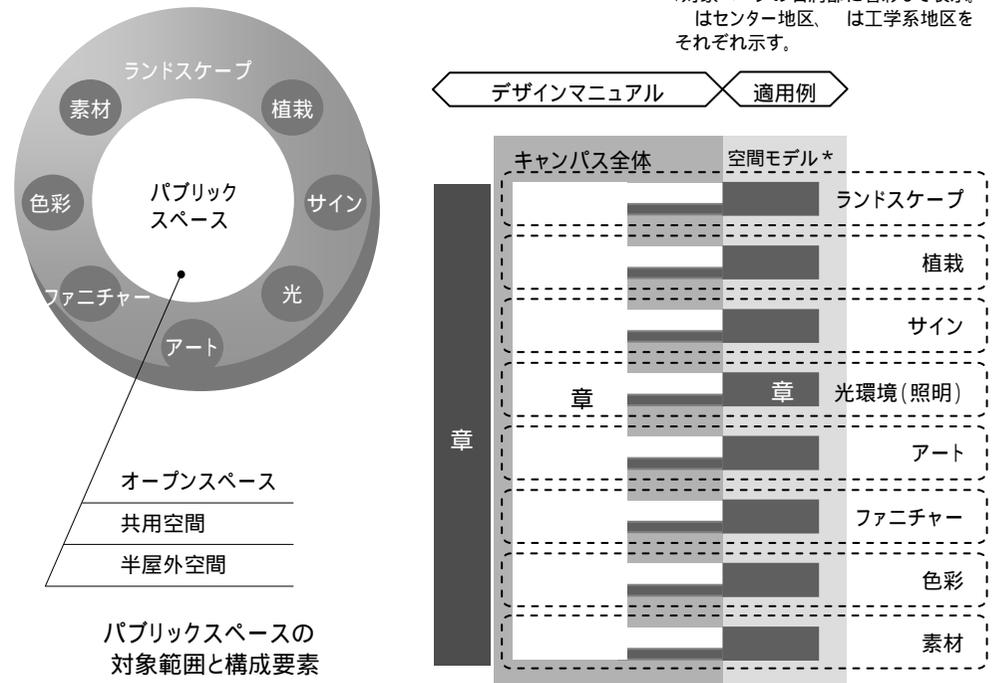
- (1) ランドスケープ: キャンパス内外の空間を構成する要素の集合により形成されるため、相互の関係が重要となる。
 - (2) 植栽: キャンパスに潤いや豊かさ、そして季節感を与える重要な要素である。
 - (3) サイン: 機能はもとより、そのデザインがキャンパスの空間を印象付ける要となるため重要であり、照明やアートとの関係により豊かな空間作りに貢献する。
 - (4) 光環境(照明): 夜間のキャンパス空間を特徴付ける要素であり、機能性、デザイン性が重要である。
 - (5) アート: 秀逸なアート作品は空間に潤いや緊張感を与え、非日常的空間を創出するとともに、キャンパスで活動するコミュニティに刺激を与える。
 - (6) ファニチャー: キャンパス内での様々なアクティビティに対し、より豊かな活動を支援する装置として位置づけられる。
 - (7) 色彩: 色彩のコントロールにより、統一感や心地よさを与え、地域環境との融合や九州大学の歴史的空間の継承等に役立てることができる。
 - (8) 素材: 自然素材と人工素材の最適な使用により空間や建物に地域性、先進性、親近性を与えることができる。
- なお、これら要素以外でキャンパス空間の質に影響を与えるものについては、同様に本マニュアルを効果的に活用すると共に、パブリックスペース・ワーキンググループとの協同的な検討により適正な取り扱いをおこなう。

5) デザインマニュアルの構成

本パブリックスペース・デザインマニュアル(以下、PSDM)は、3章より構成される。

第 1章では、PSDMの役割と構成等について紹介し、「九州大学新キャンパス・マスタープラン2001」の実現を支援するPSDMの位置付けと適用のしかたについて述べている。続く第 2章では、上位計画との関連性を考慮し、新キャンパス全体のパブリックスペース・デザインの考えかたについてまとめている。そして、第 3章では、パブリックスペースを構成する8つの要素について、それぞれの前半部でキャンパス全体に関するデザインマニュアルを示し、後半部で工学系地区とセンター地区とを対象とした空間モデル(適用例)を紹介している。

*: 対象ページの右肩部に着彩して表示。
 白はセンター地区、黒は工学系地区をそれぞれ示す。



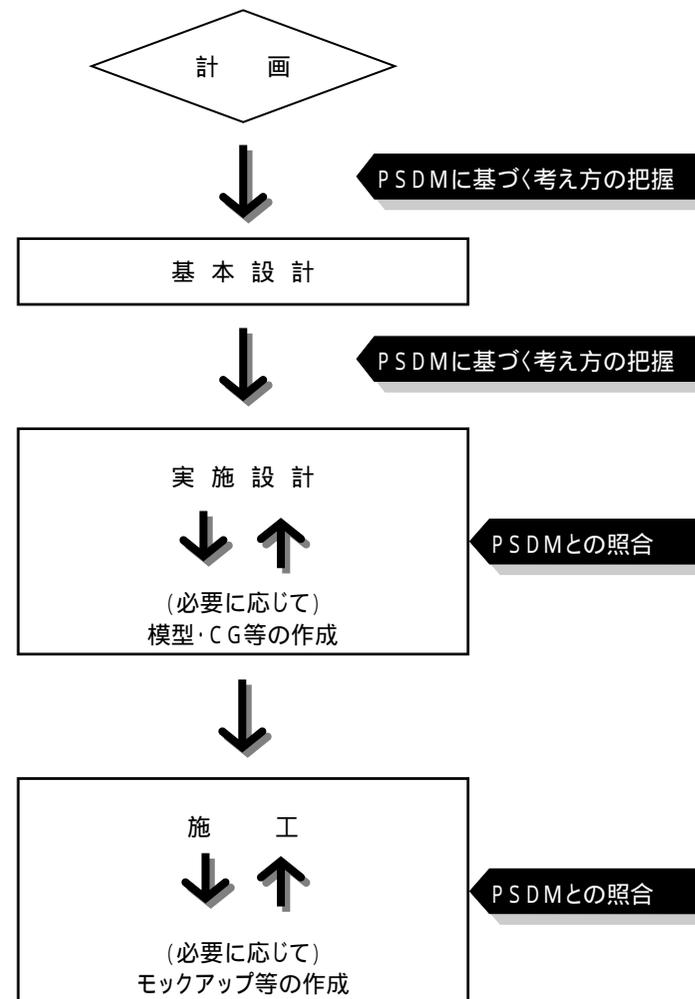
デザインマニュアルの構成

6) パブリックスペースデザイン検討の流れ

パブリックスペースデザイン検討の流れを右図に示す。

パブリックスペースの計画及び基本設計・実施設計の各段階においては、PSDMを参照し、その構成要素についての基本的な考え方を十分に把握することが前提となる。その段階における具体的検討の参考事例として、前述の「空間モデル」が位置づけられる。

『色彩』や『素材』などのうち、パブリックスペースにおいて大きな割合を占める壁面や舗装材等の検討に際しては、必要に応じて、実施設計の段階での模型やCGの作成、施工段階におけるモックアップの作成・現地確認等、精度の高い検討を行ってPSDMとの照合を行う。



パブリックスペースデザインの検討の流れ